

お互いに支えあってきた

50年の あゆみ

神戸市重度心身障害児(者)父母の会

発行:平成29年5月

〒650-0016 神戸市中央区橘通3丁目4-1

神戸市立総合福祉センター1階

TEL(078)335-8508 FAX(078)335-8509



会 長
武田 純子

50年の歩みと重み

神戸市重度心身障害児(者)父母の会は、行政はじめ多くの関係団体の方々の支えをいただいてこの50年を迎えることが出来ました。心よりお礼と感謝を申し上げます。

50年前の行政の措置の時代から障害者の自己実現を目指して、自ら相応しいサービスが選択できるよう整備されました。

その当時からは想像もつかなかった時代になり大変喜ばしいことです。

地域では自分らしい生活が送れるよう関係団体が連携して情報交換をする障害者自立支援協議会も設置されました。

この50年の年月には、神戸市重度心身障害児(者)父母の会会員の熱心な要望が通り「障害者の歯科診療所」をはじめ「昼間一時保護」「西部いこいの家」「中部いこいの家」「東部いこいの家」「ポニー教室」が出来、その時代には会員家族にとりましては心身のいこいの場所としても大変有効に活用できました。

特に「ポニー教室」は神戸市立友生養護学校(現・友生支援学校)、神戸市立垂水養護学校(現・神戸市立いぶき明生支援学校)の熱意ある先生方がボランティアとしてかかわって下さり、40年あまり継続している長寿事業です。

時代と共に情報もインターネットで手に入るようになり、障害福祉サービスも充実してきた昨今、障害児を持つ若いお母さんたちの意識も変化してきましたが、私はこの神戸市重度心身障害児(者)父母の会に関わらせて頂いたお蔭で、先輩のお母さん方から障害を持つ子供の親としての心構えを数多く学ばせてもらいました。

阪神淡路大震災以来、会員は激減しましたが、「神戸に住んで良かった!」と言える市民同様「障害児(者)を神戸で育てて良かった」と言えるように、私達父母の会は行政と両輪になってこれから先も歩いていく所存です。

改めてこれまで神戸市重度心身障害児(者)父母の会を励まし、見守り育てて下さった諸先輩、関係団体の皆さまには、心より感謝を申し上げますと共に、この50年の節目に喜びを共に分かちあえます事を心より感謝申し上げます。



神戸市長
久元 喜造

神戸市重度心身障害児(者)父母の会 創立50周年記念誌に寄せて

神戸市重度心身障害児(者)父母の会の創立50周年を心からお慶び申し上げます。皆様には、平素より神戸市の福祉の向上のために格別のお力添えをいただいております。厚くお礼申し上げます。

神戸市重度心身障害児(者)父母の会は、昭和42年4月の設立以来、半世紀の長きにわたり、重度心身障害児、重度心身障害者の人権の保障、教育の充実、地域福祉の充実などを目指して活動を続けてこられました。その間の会員の皆様のご労苦に対しまして、深く敬意を表します。

神戸市では、平成28年3月に「神戸市障がい者保健福祉計画2020」を策定いたしました。この計画では、『障がいのある人が、自らの意思決定に基づき、一人ひとりに応じた支援を受け、個人として尊重され、地域のなかで安心してともに暮らし、活躍できる「こうべ」をみんなでつくっていく』ことを基本目標として、2020年までに取り組むべき施策の方向性や重点的に取り組むべき事業などを掲げています。神戸市は、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるという、この計画の理念にのっとり、それぞれの障害の状況に応じた福祉サービスを提供し、また、将来の住まい・くらしの場の確保に努め、さらに、必要な時に適切な医療が受けられるよう態勢を整えるなど、事業者や関係団体の皆様と連携を図りながら取り組んでまいります。会員の皆様におかれましては、神戸市の障害福祉行政に引き続きご理解、ご協力をくださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、神戸市重度心身障害児(者)父母の会の今後ますますのご発展、会員ならびにご家族の皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いのごあいさつとさせていただきます。



大本山 須磨寺貫主
小池 弘三

じゅうしん父母の会50周年に寄せて

あの阪神・淡路大震災では、商店街をはじめ須磨寺駅からお寺に至る間でも、大きな被害が出ました。参道筋のお寺の借地に家を建て、長く住んでこられた被災者の中には、再建がままならない方もおられました。

震災翌年の2月中旬、須磨の町も復興に向かい出した矢先に先代が遷化し、住職となった私が土地の管理もするようになりました。土地の権利や金銭の事で気が滅入る問題が多い中、お世話になりましたとの丁寧な挨拶のみでお返しして頂いた土地は、家ではない何かに役立てたいと思っていた時、被災した障害者施設の再建のため、土地を探している団体があることを知りました。見返りを求めない善意によって戻った土地は、このような方々に使って頂きたい、そのお役に立てないかと区役所に相談したところ、ご縁を頂いたのが当会でした。

十分に満足してもらえるような広さではないと思いましたが、施設が建ち、そこに集う方々が折々にお寺に来てくださる事が、とても嬉しく思えます。また、畑だった参道沿いの小さな土地にも、お寺のものかと思まがう可愛らしく新しい施設が出来、毎月の縁日では、そこでの買い物を楽しみに参拝される方が多数おられることに、大きな喜びを感じています。

この頂いたご縁に心より感謝しています。ご苦労も多い事でしょうが、ここが誰にでも優しく、温かい出会いの場所となるよう祈っています。 合掌



元副会長・
元兵庫支部長
白旗 カツエ

父母の会 50周年に思いを寄せて

長い歴史にわたり父母の会を支えてくださった皆様に深く感謝申し上げます。
当時を知るのも私ぐらいになってしまいました。次男も誕生して今年(平成28年)60歳を迎えることができ、時の流れを感じています。

その当時は就学もできずに家の中で過ごすことの多い子供を抱えて何とか外に出て訓練に楽しい行事にと、この子のためになることを考えての行動でした。

初代小田桐会長、内田会長、百道会長、池田会長とともに歩んできました。支援学級の先生や医師の支えで訓練事業は各家庭まで出向いて実施し、訓練がいかに大切かを感じました。その時の訓練事業がポニー教室という形になり今日まで続いております。父母の会だから今まで続けてこられたのかなと自負しております。

昼間一時保護も父母の会の事業として、任されるようになりました。今もあの当時に一時保護事業を利用して運転免許を取得できたり、兄弟の世話ができた話題になります。阪神・淡路大震災時も中部いこの家は大きな被害に遭い、安否確認に追われる日々が続くつらい悲しい現実でしたが、たくさんの方々の支えで乗り越えることが出来ました。

情報はインターネットですぐに知れる時代となりましたが子供を持つ親の喜び、悩みは尽きないものです、そんな時にホッとできる場所でこれからもあって欲しいと願っております。

何もお手伝いできずをお願いするばかりですが末長くよろしくお願い致します。

創立50周年おめでとうございます

元心身障害福祉センター所長
寺本 迪彦

神戸市重度心身障害児(者)父母の会 創立50周年おめでとうございます。
当会は昭和42年に誕生し、神戸開港150年記念の年に、良きリーダーのもと、会員、家族、支援者が一丸となって絶え間ない地道な活動の中で多くの実績を残され、創立から50年の時を刻まれました。心から敬意を表します。

私の神戸市重度心身障害児(者)父母の会との出会いは、昭和45年、障害児施設に勤務していた時でした。その後も福祉事務所支部活動に参加させて頂き、又、市役所で身障担当の時、心身障害福祉センターに勤務の時と、関わりが多く様々なことが思い出されます。

特に他の障害団体と共に社会福祉法人を設立し身体障害者施設を運営に関与され、地域の福祉向上に貢献されています。その後働きたい、外に出たい、居場所が欲しい、この希望を叶えるためにNPO法人じゅうしん神戸(小規模作業場)を立ち上げました。

会員、神戸で生活される重度の障害児(者)の希望に添えるよう、コツコツと努力を重ねてこられました。特筆すべきことは、父母の会の長年の悲願であった重度心身障害児施設が神戸市内に建設されたことです。実現のための会員の努力は並々ならぬものでした。

これからも障害をもった人たちの幸せのための活動を期待いたしております。



社会福祉法人 芳友
名誉会長
古田 耕司

創立50周年おめでとうございます

神戸市重度心身障害児(者)父母の会が半世紀となる創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また50年という長きにわたりご尽力された関係者の皆様に対し、深く敬意と謝意を表します。私達にここにこハウス医療福祉センターは、平成13年10月に神戸市で初めての重症心身障害児施設(現医療型障害児入所施設、療養介護事業)として、しあわせの村に開設しました。重症心身障害児施設の長い歴史の中では比較的新しい施設ではありますが、開設や開設当初より関わって頂いた方々のご努力に、改めて感謝申し上げます。

事業規模としましては、入所80床、短期入所7床、入院1床(緊急用)で運営しております。また、生活介護事業、一般外来を行い在宅支援にも力を注いでおり、ここ数年では、重症心身障害児(者)に限らず発達障害児診察、リハビリテーションの利用が増加しております。平成24年には10周年記念事業の一環として敷地内に重症心身障害児(者)リハビリテーション、発達障害児外来、発達障害児リハビリテーション、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業のスペースを増築し、在宅支援サービスの充実を目指しております。今後も福祉政策は大きく変化を遂げ、更に困難な状況が推測されますが、引き続き神戸市重度心身障害児(者)父母の会の皆様と共に、利用者の安全、安心を守る決意を新たにしたいと感じます。



ポニー教室
初代表
清水 郁郎

重心父母の会と共に歩むポニー教室

50周年おめでとうございます。ポニー教室は重心父母の会と共に歩んでここまで来ました。ポニー教室の始まりのきっかけは、神戸市立友生養護学校(現・友生支援学校)に転勤してきた時でした。その年につなかりのあった荻原病院の院長(故・荻原先生)に誘われて、神戸市の医療ボランティアグループの活動に参加させて頂きました。そこでは障害のある未就学の子ども達や、就学前の子ども達が通い、医療相談、訓練相談、就学相談、日常生活相談等が行われていました。そのスタッフとしては、故・荻原医師、渡辺小児科医師を中心に、重心父母の会の代表と理学療法士の方々、そして私、福祉事務所の代表、兵庫ビューローの代表片岡さん達がおられました。訓練を受ける機会のない子ども達に、訓練の場を提供しようという機運が高まり、昭和49年の11月にポニー教室は誕生しました。

ポニー教室の開設前後に神戸市の医療ボランティアグループの活動が行政に大きな影響を与え、障害のある子ども達が医療的なケアを受けられる療育訓練施設としてあじさい学園(丸山地区)と新開地の心身障害福祉センターの中にくすのき療育園、そして垂水養護学校等が設立していきました。ポニー教室の利用者も就学前の子ども達から地域の小中学校に通う子ども達、そして養護学校の卒業生達が訓練に取り組む教室に変わっていきました。

私は、30周年をもって代表を垂水養護学校教諭の川下先生にバトンタッチをさせて頂きましたが、本当に多くの人達が40年以上のポニー教室の歩みを支えて下さいました事は、感謝で一杯です。何よりもポニー教室を利用して下さった人達、共に取り組んで下さった利用者とその家族の方々に心より感謝申し上げます。このポニー教室の歩みは山あり谷ありの険しい道のりでしたが、その灯が消えそうになった時に力を与えて下さったのは、保護者の皆さんでした。「先生、この教室がなくなったら、私らどうするん?先生らはしんどくなったらいつでも止められるけど、私らこの子と一生取り組むんですよ。しんどいとか、楽やなんていうてられないんです」という叱咤激励が、このポニー教室の大きな支えであったと思っています。

沿革

昭和37年ごろ、重度心身障害児の保護者に福祉年金が支給されておりました。その受給者である保護者が集まって神戸市とともに各区福祉事務所単位で父母の会が結成された。これが父母の会の始まりです。

年表	
昭和37年9月	「重度心身障害児父母の会」を結成して発足、事務局を神戸市民生局児童課(当時)に置く
昭和40年4月	これらをまとめて「神戸市重度心身障害児父母の会連合会」となる
昭和42年4月	各区の父母の会を統合一本化して「神戸市重度心身障害児(者)父母の会」とする。各区の会を支部に変更する。支部は東灘、灘、葺合、生田、兵庫、長田、須磨、垂水の8つ
昭和42年6月	第1回神戸市重度心身障害児父母の会総会を生田公会堂で開催
昭和46年10月	旧生田区橋通に「中部いこいの家」を開設
昭和48年	兵庫区北神地区が分区して北区となったことに伴い、あたらしく北支部が発足
昭和49年	事務局(当時の神戸市民生局障害福祉課)の分室を「重障児中部いこいの家」に設置
昭和52年6月	心身障害福祉センターが完成すると同時に「中部いこいの家」及び事務局分室はその3階に移転
昭和56年4月	葺合区と生田区の合併により中央区となったことに伴い、葺合、生田各支部は中央支部として発足
昭和57年8月	垂水区西神地区が分区により西区となったことに伴い、西支部が発足
平成7年1月	阪神淡路大震災発生
平成7年6月	心身障害福祉センターの震災による補修工事のため、事務局分室は「重障児東部いこいの家」へ一時移転する。11月に工事が完了し、心身障害福祉センターへ戻った
平成7年7月	会創立30周年総会および震災励まし会を木材会館で開催
平成13年10月	「にこにこハウス」(現在の「にこにこハウス医療福祉センター」)がしあわせの村に開設。神戸市への積極的な運動を展開して実現した
平成17年4月	相談窓口を開設
平成18年5月	会創立40周年記念総会・懇親会を心身障害福祉センター6階体育室で開催
平成29年3月	神戸市立総合福祉センターへ移転



心身障害福祉センター



第二回 総会の様子



心身障害福祉センター看板



歴代会長



小田桐 清美

- 昭和42年4月から昭和56年4月まで就任
- 退任と同時に名誉会長に就任。平成3年1月死去
- 会の発足に尽力し、草創期をつくりあげた



内田 幸夫

- 昭和56年6月から昭和59年3月まで就任
- 昭和59年3月死去
- さらなる活動の原動力として活躍



百道 孝

- 昭和59年3月から平成16年3月まで就任
- 平成16年7月死去
- 療護施設の建設をめざして社会福祉法人の設立に寄与、その後ワークホーム明友が建設された。阪神淡路大震災の対応に陣頭指揮を執る



池田 希美枝

- 平成16年4月から平成26年4月まで就任
- 前会長の遺志を継承し、会をさらに発展させた。NPO法人じゅうしん神戸の設立に寄与した

事業活動

1 バザー

障害者に対する啓発と父母の会の活動資金を確保するために、愛のチャリティーバザー、初夏のバザー、しあわせの村バザー、その他のバザーを出店しています。商品の提供を広く一般市民の方々にご協力をお願いしています。その他多くの方のご支援とご協力をいただいて開催しています。



愛のチャリティーバザーの様子(兵庫公会堂)



平成7年5月重障児西部いこいの家で開催

チャリティーバザー

●昭和47年8月27日に第1回を重障児東部いこいの家で開催

その後、兵庫公会堂で、平成28年度までに45回の開催となりました。本会の最大の重要行事であり、また活動資金確保の源です。当初は売上も多くありました。社会情勢の変化に比例してその運営が難しくなり、近年は物的、人的に大きな課題を背負っての開催となっています。



開店前の様子



第一回は重障児西部いこいの家で開催

初夏のバザー

●平成7年5月6日に第1回を重障児西部いこいの家で開催

阪神淡路大震災の直後でもあり、安く買い物が出来ると多くの方が喜んでくださいました。その後、心障センター会議室で3月のチャリティーバザーの後に開催し、値札の半額で販売しています。

健康福祉フェア大バザー

●健康福祉フェア大バザー(しあわせの村バザー)

平成2年に初めて参加し、以後毎年参加しています。福祉関係者が一堂に集まる大バザーで、交流も兼ねています。



しあわせの村にて開催

2 イベント

菅原洋一チャリティーコンサート

●昭和53年8月26日 神戸文化ホール大ホールで開催

(前年の8月22日には須磨支部主催で開催)

歌手生活20周年記念として菅原洋一が出演、県立神戸高校合唱部と父母の会母親コーラスが賛助出演しました。



父母の会母親コーラス

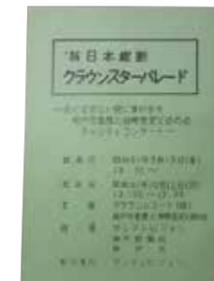


当日のチラシ、台本、プログラム

歌謡チャリティーコンサート

●昭和61年9月19日

会創立20周年記念行事として「'86日本縦断クラウンスターパレード」を神戸国際会館(当時)で開催されました。鳥羽一郎、門脇陸男、神戸一郎ほか多数の人気歌手が出演し得意の歌を披露しました。



当日の進行台本

じゅうしんまつり

●平成3年11月10日に第1回を開催し、平成12年10月の第10回まで毎年開催

障害者バンド「ジプシー」は毎回出演の人気バンドで、その他プロの歌手やピアニストなどの演奏で会場全員が一体となって楽しみました。



第1回 じゅうしんまつり障害者バンド「ジプシー」

じゅうしんフェスタ

●平成15年11月22日、平成17年10月30日、平成19年11月18日、平成21年10月25日、平成23年10月30日に心障センター6階体育室で開催

プロのミュージカル歌手などによりショーを見ながら食事を楽しみました。



じゅうしんの集い

●平成25年10月13日

しあわせの村たんぼぼの家で開催

●平成27年9月12日

ふれあいランチクルーズ コンチェルトに乗船、食事



遊覧船「コンチェルト」に乗船

講演と映画(地域啓発活動)

●平成13年11月1日 講演と映画 シーガルホールにて
映画監督・伊勢真一氏の講演

映画「えんとこ」の上映

●平成14年11月23日 映画「びぐれっと」を上映

神戸市勤労会館7階大ホールにて

いずれも地域交流会として開催

3 ふれあいバス旅行

会員相互の親睦と外出機会が少ない障害者の社会参加の実現をめざして、ふれあいバス旅行を実施しています。平成18年に初めて実施しました。リフト付観光バスをチャーターして出来る限り遠方へ行っています。バスの中から見る景色、街の中の散策、博物館などの見学を楽しみます。ホテルでおいしい食事をいただき、おみやげをたくさん買います。行程の途中で段差や障害者トイレに困ったことがありました。これらは後に改善を申し入れるヒントとなっています。

年 表	
平成18年11月11日	近江八幡、琵琶湖博物館
平成20年11月8日	和歌山、有田川
平成22年9月11日	京都
平成24年11月24日	鷲羽山、倉敷
平成26年10月18日	姫路セントラルパーク、 塩田温泉夢乃井
平成28年10月30日	京都鉄道博物館、雄琴温泉



2016年 京都鉄道博物館



2014年 姫路サファリパーク



2016年 塩田温泉「夢乃井」

車両の運行

昭和52年度に神戸市へ「障害者施設へ通園・通所するためのバスを運行してほしい」と要望書を提出しました。

昭和54年度には、神戸市はリフト付福祉バス「おおぞら号」を父母の会に貸与し、運転手雇用など諸経費の予算が執行されました。

移送サービス事業を目的として、リフト付車両「やまびこ号」を配置しています。



リフト付福祉バス

「おおぞら号」

●昭和54年4月1日 神戸市から運営を受託して運行を開始

車椅子常用者等日常外出困難な心身障害児(者)の移動を援助することを目的としています。

障害者施設、支援学校、デイサービス事業者などからの利用申し込みがあり、安価で旅行ができるため好評です。シーズン中は日程が詰まっていたり希望の日に利用できない時もあります。



リフト付車両

「やまびこ号」

●平成5年9月20日 神戸市より委託を受けて短期入所移送サービス運営事業を開始 平成10年3月まで実施した

●平成18年1月 移送事業を開始

●平成22年11月 新車に更新して「やまびこ号貸出事業」として運用を始める

在宅障害者の短期入所、施設利用者の帰省・帰所、在宅障害者の行事参加などによる送迎の必要があるとき利用されています。

一方、バザー商品集荷のときもフル運行しています。



いこいの家の変遷

障害者及びその家族が、移動や介護の合間にほっと一息つく場所として開設されました。当初は昼間一時保護事業を実施していましたが、後に神戸市へ移管されました。そのため西部及び東部いこいの家は閉鎖されました。

重障児東部いこいの家

- 昭和46年9月 開設(灘区備後町)
- 昭和52年7月 建物が新築され、「身体障害者福祉作業所(六甲作業所)」を併設
- 昭和56年10月 昼間一時保護を開始
- 平成8年3月 閉鎖

昭和47年8月に第1回チャリティーバザーを開催した記念すべき場所です。震災のときは本部の事務局が一時ここに移転していました。平成8年には神戸市の施策により神戸市立東部在宅障害者福祉センターへ移管に伴い閉鎖されました。



重障児東部いこいの家

重障児中部いこいの家

- 昭和46年10月 開設(旧生田区橋通)
- 昭和52年6月 神戸市立心身障害福祉センター3階に移転
- 昭和52年8月 昼間一時保護を開始
- 平成8年4月 「昼間一時保護事業」は神戸市の事業として引継がれ、神戸市立中部在宅障害者福祉センターへ移管

兵庫支部が活動の拠点としていました。クリスマス会やカラオケ大会などの行事が行われました。最近、パソコン教室、パッチワークなどで賑わっています。開設時から、父母の会本部の事務所を設置しています。



重障児西部いこいの家

- 昭和54年7月 「西部希望の家」として開設(垂水区星陵台) 神樹の会垂水作業所と併設
- 昭和59年4月 重度身体障害者生活指導事業「垂水希望の家星陵園」を開設
- 昭和61年4月 「垂水希望の家在宅重度障害者デイサービス事業」と名称を変更して再出発
- 平成7年5月 第1回初夏のバザーを開催
- 平成10年10月 閉鎖

垂水支部が活動の拠点としていました。クリスマス会や夏まつりなどの行事が行われました。

平成10年に神戸市の施策により「神戸市立西部在宅障害者福祉センター」が開設されたことにより閉鎖されました。



重障児西部いこいの家



「西部希望の家」開所式

療育相談から機能訓練教室(ポニー教室)へ

療育相談

昭和38年ごろに、整形外科病院・内科小児科医師(葺合療育相談グループ)の献身的な奉仕により療育相談・療育指導が始まりました。

年表

昭和38年	葺合福祉事務所(当時)と整形外科病院・内科小児科医師(葺合療育相談グループ)の奉仕により毎月1回療育相談、指導の会が定期的に行われていた。また歯科療育巡回相談家庭訪問も開始された
昭和48年	巡回相談、歯科相談、療育相談を開始
昭和53年10月	心身障害福祉センターに心身障害児(者)歯科診療所を開設 神戸市へ積極的な運動を展開して実現した
平成16年4月	神戸市が「こうべ市歯科センター」を長田区二葉町に開設 心障センターの歯科診療所が移転

ポニー教室

ポニー教室は動作の学習(機能訓練)教室です。ポニーとは、乗馬の人と一緒に寄り添ってゆっくり歩く様子から、共に寄り添って行こうという願いで命名されました。

じゅうしん父母の会会員で、動作の学習を受けるチャンスが少ないハンディキャップのある人を対象に、日々の生活を快適に過ごせるために実施しています。昭和49年に始まり、40年以上の歴史があります。

年表

昭和49年11月	兵庫県心身障害児(者)福祉協会、整形外科・小児科医師、友生養護学校(当時)の医療ボランティアグループによって訓練を受ける機会を提供しようという機運が高まり「ポニー教室」が誕生した 会場は県庁近くの浜地ビル
昭和52年4月	運営が神戸療育相談グループ、ポニー教室グループ、父母の会の三者合同となる 会場は心身障害福祉センター、垂水体育館の2か所
昭和58年	垂水体育館の会場を「西部いこいの家」に移す
平成7年	垂水の会場を「垂水養護学校」へ移す
平成16年11月	ポニー教室30周年記念式典をタワーサイドホテルで開催
平成19年7月	特別事業として機能訓練会と講演会をニチイ会館で開催 独立行政法人福祉医療機構の助成を受ける
平成26年9月	心障センターの会場を「友生支援学校」へ移す
平成26年11月	ポニー教室40周年記念会を心障センターで開催



平成25年 心障センターにて



平成26年 垂水養護学校にて



平成19年 特別事業・機能訓練 ニチイ会館にて

広報活動

広報部は、主に「父母の会ニュース」を定期的に発行します。バザー会場である兵庫公会堂前地下道ギャラリーにチャリティバザーに関するのポスターを展示・地域に配るバザーチラシを作成します。

「父母の会ニュース」には、最近の本部・支部活動の状況や、行政からの制度の変更や新しくできる施設や仕組みのお知らせなどを掲載しています。

会員の高齢化とともに、広報部の活動を担う人数が少なくなっていることが悩みです。

1.機関紙「父母の会ニュース」

昭和48年11月	第一号創刊（当時の題字は「じゅうしんニュース」でした）
昭和52年3月	昭和52年3月7日発行から「父母の会ニュース」に改題
平成7年2月	震災緊急号を発行 平成8年3月にも発行

2.機関誌「じゅうしん」

昭和44年10月	創刊 ニュース、随筆、詩、短歌などを掲載
昭和59年8月	第10号を発刊 以後休止



創刊号当初は「じゅうしんニュース」であった



チャリティバザーの展示(兵庫公会堂前地下ギャラリー)



震災特集号を発行



最近号の父母の会ニュース

じゅうしん須磨寺

(特定非営利活動法人じゅうしん神戸が運営)

「じゅうしん須磨寺」は、源平ゆかりの古刹・須磨寺の参道から路地を少し入ったところに位置しており、平成11年小規模作業所として開設しました。平成21年NPO法人「じゅうしん」設立に伴い運営を移管して現在に至っています。須磨は、歴史のロマンと美しい自然に彩られた地域で、天気の良い午後は須磨寺の境内や須磨寺商店街周辺の散歩が日課のひとつです。利用者は20～30歳代の若い人ばかり14人(平成29年1月現在)です。午前中は、さをり織りや手織り、指編み、紙すき、ビーズなどの作業(自主製品づくり)、午後は趣味・創作活動を中心に日中活動に取り組んでいます。

毎月20・21日の須磨寺お大師さんを中心に新館ギャラリーで自主製品を販売、須磨区役所での障害者事業所アンテナショップ「すまるしえ」や地域のバザーなどに出店するなど、地域との交流にも積極的に取り組んでいます。

年表

平成11年4月1日	小規模作業所として開設
平成20年1月22日	運営形態を法人化することが決まり、NPO法人設立準備委員会が発足
平成20年11月17日	NPO法人設立総会をシーパル須磨で開催
平成21年4月1日	「NPO法人じゅうしん神戸」設立に伴い運営を移管
平成22年9月1日	小規模作業所から生活介護事業に移行
平成23年4月1日	須磨寺参道沿いに新館完成



須磨寺参道沿いの新館で(平成26年撮影)



反物・ストールづくり(手織り)



ハガキづくり(紙すき)



一日の始まり・あさの会(本館)



恒例の運動会(垂水養護学校体育館)



手づくり品の販売(新館)

その他

1 表彰

年表

平成18年1月	井植文化賞(社会福祉部門)を受賞
平成19年11月	神戸市市民福祉顕彰 市民福祉功労賞を受賞
平成20年10月	資源集団回収活動優秀団体表彰を受賞
平成27年11月	資源集団回収活動優秀団体表彰を受賞



2 表彰(個人)

年表

昭和56年度	長谷川理事 心身障害者更生援護功労者 市長表彰を受賞 小田桐名誉会長 市民福祉顕彰 功労賞を受賞
昭和58年9月	百道孝氏 心身障害者福祉増進の功 市長表彰を受賞
昭和59年9月	新居宗三氏 心身障害者更生援護功労者 市長表彰を受賞 中島君子氏 心身障害者更生援護功労者 市長表彰を受賞
平成2年7月	百道孝氏 精神薄弱者の福祉の向上と団体の育成の功 兵庫県知事表彰を受賞
平成2年11月	百道孝氏 精神薄弱者福祉の増進の功 厚生大臣感謝状授与
平成2年9月	中新井兵吾氏 心身障害者更生援護功労者 市長表彰を受賞 市川智乃氏 社会福祉事業協助者 市長表彰を受賞 大屋ひで子氏 社会福祉事業協助者 市長表彰を受賞 前川正彦氏 心身障害者更生援護功労者 市長表彰を受賞
平成5年	池田希美枝氏 心身障害者更生援護功労者 市長表彰を受賞
平成4年9月	山本陽平氏 心身障害者自立援護功労者 市長表彰を受賞
平成4年11月	百道孝氏 民間社会福祉関係団体功労者 全国社会福祉協議会長賞を受賞
平成6年3月	百道孝氏 神戸市市民福祉顕彰 市民福祉功労賞を受賞
平成6年12月	白旗カツエ氏 身体障害者援護功労者 厚生大臣賞を受賞
平成7年9月	武田純子氏 心身障害者自立援護功労者 市長表彰を受賞
平成8年12月	百道孝氏 身体障害者更生援護功労者 厚生大臣賞を受賞
平成18年	池田希美枝氏 障害者自立更生援護功労者 厚生労働大臣表彰を受賞
平成23年9月	時本清子氏 心身障害者自立援護功労者 市長表彰を受賞

支部活動

東灘支部

地域交流の活発な支部

東灘支部は、神戸市の東端にあり、会員数は支部の中で一番多い方です。

32回を数える「東灘福祉五団体作品展」をはじめとして、他の障害者団体や地域や自立支援協議会と共催する行事も「グラウンドゴルフ大会」「元気アップ運動会」「障害者スポーツ交流会」と少しずつ増えました。

東灘支部独自の行事の中でも、およそ40年のお付き合いのボランティアグループ『住吉中学校野球部OB会』の協力で、現在も続いているのは「運動会」と「もちつき大会」です。

定例の支部総会、新年交流会以外に、地域の行事にバザーやカレー販売等で参加し、地域との交流を大事にしています。



活動の様子

活動記録

2月	新年交流会
6月	住吉中学校野球部OB会招待運動会
9月	元気アップ運動会
10月	東灘福祉五団体作品展 リバーサイドグラウンドゴルフ大会
12月	住吉中学校野球部OB会招待もちつき大会

灘支部

小規模ながらも楽しく活動中

灘支部は現在6家族のファミリーで活動しています。少人数で小さいながらも楽しい支部活動をしていきたいと、みんなで励ましあって活動しています。

本来なら社会に出て一人前に働いている年齢のメンバーですが、ずっと在宅でここまでやってきています。作業所に通うメンバー、日々の生活はそれぞれ違いますが愛する家族の応援で一生懸命生きています。

「夏休み親子ふれあい体操」「クリスマス会」は支部活動の中で一番メンバーも家族も楽しみにしている行事です。平成28年8月の夏休み親子体操は、私たち家族の応援をいただいている川下先生をはじめボランティアとして来てくださっている先生方のおかげで、今まで車椅子でなかなか参加できなかったメンバーが、ボランティアの送迎用ワゴン車に乗って参加され、先生方も丁寧に指導をしてくださり、久しぶりに体を動かした本人はもちろんのこと、家族や私たちも感謝と笑顔で楽しい時間をすごすことができました。

灘支部は小粒ですが楽しい取り組みをみんなで力合わせて行って人生の思い出をともに作りながら、これからも仲良く明るく進んでいきます。



親子ふれあい体操



クリスマス会の後のお楽しみ

兵庫支部

一つひとつの活動を大切に頑張っています

兵庫支部では、春に支部総会、夏に親子一泊研修旅行、年末にはクリスマス会を五団体との共催、兵庫支部主催の2回開催します。

支部総会では、兵庫区役所の部長さん・係長さんに私たちが今後どうしていけばいいかなどの有益なお話をいただいております。

親子一泊旅行は、普段経験できないホテルで、知らない人達との食事マナーなどの勉強をしています。写真はその時のものです。

年3回(1、5、9月)のクリーン作戦では、心障センターの近辺を掃除、草抜き、落ち葉掃きを行います。

会員の高齢化により今までと同じような活動は困難になっております。本部や区役所の方々、そして会員の皆様のご支援とご協力のもとがんばって行こうと思っています。



活動の様子

活動記録

4月	支部総会
9月	親子一泊旅行
12月	クリスマス会
1、5、9月	クリーン作戦

中央支部

皆で協力・相談し合っています

春は、イチゴ狩りに行きます。車椅子の方が運営する苺ハウスで、小さな子どもや大人や車椅子もみんなで貸し切って家族でイチゴ狩りを楽しみます。

夏は、梅干しや出汁昆布の贈り物が届きます。

秋は、施設見学や中央支部での訓練会を実施しています。

冬は、クリスマスプレゼントを配り、無理なく出来ることをして活動しています。

昨年から役員も少し変わってきて皆さんと相談しながらぼちぼち変わって行けたらいいね?!と言っている所です。若い家族も入ってきてほしいなとみんなで待っています。



活動の様子



北支部

“心を豊かに”を目標に学びある行事を

昭和48年に行政区画変更により北区が発足しました。それに伴い兵庫支部より分離独立して北支部が誕生しました。兵庫区湊川より北へ神戸電鉄が走り三田市まで続く細長い地形で、電車の中から広々とした新興団地を両側に眺めながら活動しています。

北支部の活動は、手をつなぐ育成会と共に協力しながら各行事をしてきました。「合同クリスマス会」は16年間続きましたが、社会情勢の変化と共に閉会を決断せざるを得なくなりました。当時は会員数も多く楽しく毎日の活動に励みました。

現在の支部活動として「総会」「レクリエーション」「クリスマス親子食事会」を年一回開催しています。“心を豊かに”を目標にして、行事を通して社会の一員としての規律マナーを学んでいます。この行事を子供達は楽しみに待っています。



服部緑地公園にて

活動記録

昭和50年～平成3年	合同クリスマス会
平成17年6月	親子レクリエーション ユニバーサルスタジオジャパン
平成7年12月	クリスマス親子食事会 ホテルおいらく「千羽鶴」
平成19年6月	親子レクリエーション 関西国際空港
平成19年12月	クリスマス親子食事会 ポートピアホテル「やわらぎ」

長田支部

楽しみと保護者の負担を減らす活動の両立

会員の高齢化が進む中、活動がしにくくなりましたが、楽しくて明るく活動できるようにと役員のみなさんと話し合いながら、これまで先輩たちが作り続けてこられた長田支部の活動を継承しています。

しかし、親子ともども年齢が高くなり、歩いていた人も車椅子移動に、入浴介助も親だけでは無理になり、親子の体調が悪くなるなど変化しすべての介助に負担が多くなってきました。その分、地域の民生委員さんやヘルパーさんに、移動の手伝いや入浴など部分的に参加していただき、楽しみは残し、保護者の負担を減らすような活動にしています。



平成27年宿泊旅行(ぶどう狩り)



平成23年宿泊旅行(姫路)

活動記録

5月	総会
10月	一泊研修旅行又は日帰り旅行
12月	クリスマス会
1月	懇親会
2月	研修会 施設見学など

須磨支部

歴史ある地域に根ざした活動

須磨区は東西南北史跡に囲まれた地域です。その中で須磨支部は活動しています。

高齢化の波はどの支部も同じですが、50年を振り返ってみたら、懐かしい思い出の写真が出てきました。これは、元支部長高木千巴さん(故人)が支部の行事の中で披露された大道芸の南京玉すだれのスナップです。

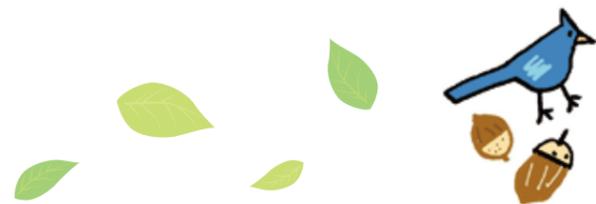
須磨寺参道において開催するお大師さんには、生活介護事業「じゅうしん須磨寺」利用者の制作品を支部の会員が協力して販売をしています。



南京玉すだれの演技

活動記録

4月	支部総会
9月	交流会
12月	クリスマスプレゼント配布
毎月20日	じゅうしん須磨寺お大師出店手伝い



垂水支部

懐かしく浮かぶ数多くの思い出

垂水区は海と山とに挟まれており、世界に誇る明石海峡大橋など観光・史跡名所が多くあり風光明媚な恵まれた環境の中で、垂水支部は活動しています。

平成10年までは「西部いこいの家」がありました。クリスマス会、キャンプなどの行事を行い支部活動の拠点でした。

垂水支部主催行事の「ふれあい区民の夏まつり」では、支部会員が腕によりをかけた味自慢の「関東煮」を販売し、好評を得ました。いこいの家で関東煮の仕込みをしたことが思い出となっています。その後「ふれあい区民の夏まつり」は神戸まつり協賛行事「たるみっこまつり」に発展しており、現在はバザーを出店しています。

リフト付観光バスで「バス旅行」に行き、多くの思い出を秘めています。「年末プレゼント」はみんなが楽しみにしています。

現在では役員及び会員の高齢化により、活動が少し鈍っていますが、行事を行うときは各人が助け合ってパワーを発揮しています。



平成11年ふれあい区民の夏まつりで関東煮を販売

活動記録

昭和58年12月 ～平成3年12月	クリスマス会
昭和60年8月 ～平成16年8月	ふれあい区民の夏まつり
平成17年5月～現在	たるみっこまつり
毎年6月	支部総会と懇親会
平成4年～現在	年末プレゼント
おおむね2～3年毎	バス旅行

西支部

新しく、元気あふれる支部

西区は緑豊かで平地が多く気候も穏やかで住みやすい所です。西支部は垂水区から分区した昭和57年8月に発足しました。父母の会50年の歴史を考えると比較的新しい支部です。

現在、支部会員は16名、年2回の日帰りバス旅行とクリスマスプレゼント配布が主な支部活動です。

バス旅行は会員が参加しやすいように、朝はゆっくり出発し早く戻るようにしています。ここ数年は、人と自然の博物館、神戸どうぶつ王国、酒蔵、明石海峡大橋見学など、また2年に1回はぶどう狩りを楽しんでいます。美味しいランチも憩いのひと時です。それぞれの会員の事情もあって約半数しか参加できていません。それでも、バスに乗ると直ぐに大きな話し声と笑い声がバス中に響き渡ります。皆さんすごく元気で明るくて笑顔がいっぱいです。

西支部も高齢化が進み行事参加できない方が多くなってきていますが、これからも楽しく会員間の交流をしていきたいと考えています。



酒蔵の前にて



神戸市重度心身障害児(者)父母の会 50年の思い メッセージ (敬称略)

重度心身障害児(者)父母の会50周年おめでとうございます。会は皆さんにとって心強い味方です。やすらぎもバザーの値付け、当日、お茶等もすこしはお手伝いをしました。いまはあまりお手伝いをしてませんが、これからもますますの発展をおいのりしています。

秋本 菊江

50年前、3~4歳の子供を”ねんねこ”で背負って楠公さんの境内を通り、多くの鳩をかき分けて父母の会の訓練所へ通っていました。ある日、体をカッチンカッチンとしたので振り向くと、袴に鳩が止まり顔と顔がすれすれになり、にらめっことなりました。私はびっくり飛び上がり、鳩もびっくりして逃げて行きました。それ以後、そこを通るとき何となく体を硬くしていたの思い出しました。その時一緒に訓練した親も子供も半分はあの世に行かれ淋しい思いがし涙しています。

百道 泰子

50周年おめでとうございます。私にとって「父母の会」は原点であって、もし出会えていなかったら今の私はなかったと言えます。理事会では、障害のある子供たちがより良く生活するために心をこめて話し合いました。いつも中心は子どもたちです。楽しいイベント、市への要望書提出など思い出いっぱいです。

由良 雅子

父母の会創立50周年をお祝い申し上げます。「ふれあい区民の夏まつり」で、西部いこいの家で炊いた400食分の「おでん」と「氷」を販売し、大忙しのうちに完売したことを思い出します。いつの年だったか雨がまつりが中止になりました。すでに炊き上がったおでんを会員さんに買ってもらうため電話すると、皆さん雨の中をいこいの家までお鍋を持って買いに来てくださいました。このときは本当にうれしかったです。これらも障害を持つ人たちに笑顔を増やせる会でありますように。

大住 啓子

「父母の会」に入会して、ポニー教室の訓練を受けたお蔭で今まで生き永らえていることに感謝しています。「おおぞら号」でフルーツフラワーパークへ行ったとき、人生初めての神戸ワインを飲ませてもらったことは強烈な印象が残っています。「父母の会」の役割は、障害者や親にとってとても重要なところのより所となり助け合っている場所と思っています。

中村 謙司

父母の会に入会したのは娘がなかよし学級に入学した時でした。それまでは入退院繰り返しの乳幼児でしたので、いろいろな人との出会い、体験、経験をさせようと思い、父母の会の行事や旅行を楽しみに参加し今に至っています。訓練の機会が少なく「ポニー教室」は娘と共に感謝しています。

林 庸夫

50周年おめでとうございます。思い出と言えば、毎年のバザー、地域の方々に支えられ、又クリスマス会では子供達の笑顔に励まされ、思い出一杯の年月でした。ありがとう!

内田 ヨシノ

重心父母の会は50年を迎えました。振り返って見れば色々なことが思い浮かんできます。子供の3歳児検査があったとき、まだ歩けない、言葉も出ない状態で、集団生活はまだ無理と言われたとき、くやしくて涙が出たことを今も忘れることはありません。マッサージに通いはじめました。年配の人達が行っている所ですが、みんなにやさしくしてもらい子供も大喜びで元気づけられました。父母の会に入会したのはその頃でした。2年ほどマッサージに通っているうちに少しずつ成長が見られ、ある日、つかまり立ちが出来た時、家族みんなで大喜びをしたことを思い出します。そして丸山学園に入園することが出来ました。50年続いた会に感謝してこれからもみんなの力で頑張ってください。

岡本 照子

支部の旅行で、淡路ウエスティンホテルやキリンビアパークと椎茸狩りなど、家族では行きにくい所に連れて行ってもらいました。フランス料理のフルコース、椎茸のパーベキューはとてもおいしかったです。

森田 尚子

50周年いろいろなことがありました
イオンとか食事とかいろんなこと楽しんだね
ステーキ食べたね
思い出ありがとう

はまかわ くみこ

父母の会50周年おめでとうございます。子供が通う垂水養護学校でお誘いを受けて父母の会の会員となりました。会に参加することでお母さん方の様子や、話に同調したり教えられたりで安心をいただき心強く感じます。垂水小学校での夏まつりには、おでんを作り販売し、先輩のお母さん方と一緒に頑張ったことは、大変でしたが教えていただいたことも多くあり貴重な時間でした。会報や研修で新しい情報を得ることが大きな安心となっています。行事に参加しては久しぶりに会うお母さん方とおしゃべりも楽しみの一つとなっています。”お互い健康で又ね・・・”と、”子供のためにも・・・”と話しています。

梅谷 雅子

創立50周年おめでとうございます。ほんのほんの少しの間、会のお手伝いをさせていただいたことがあります。当時は垂水福祉事務所に父母の会の係の方が2名おられ、会議は夜、他の職員が帰られたひっそりした福祉事務所の中で係の方のデスクのまわりにすわって話し合った記憶があります。バザー、夏まつりのおでんの仕込み等々たくさんのお話を学ばせていただきました。クリスマス会やバス旅行等も楽しく参加させていただき感謝しています。いつもお世話くださる役員の方々に御礼申し上げます。

中野 祀子

私が父母の会に入会したのは、昭和52年、娘が4歳のころでした。当時は現在のように障害児(者)へのサービスが十分でなく、兄弟の学校行事や親の通院時などは東部いこいの家での「昼間一時保護」にお世話になりました。重複障害の娘はいくつかの知的障害の施設へ通っていましたが、訓練がありませんでした。そのため「ポニー教室」での訓練は貴重な場所でした。「じゅうしんまつり」「ふれあいバス旅行」「イチゴ狩り」などの行事に参加しました。残念ながら娘は平成26年11月に41歳で病死しましたが、たくさんの思い出をいただきました。そのときの笑顔が今も忘れられません。ありがとうございました。

戸江 美津子

五十周年おめでとうございます。じゅうしん父母の会とは40年近いお付き合いです。私たち野球部OB会が何か障害者に役に立つことが出来ないものかと考えていた所、じゅうしん父母の会との出会いがあったのです。郊外へ遊びに連れて行こうと共進牧場へ車で連れて出たのが始まりでした。それから約40年近く、毎年「運動会」と「もちつき大会」は欠かせません。これからも共に年を重ねていきましょう。

小林英治